

札幌の人口と世帯 1,923,162人(+521)
899,398世帯(+518)
12月1日現在(前月比) 国勢調査ベース

市内の交通事故(発生) 6,628件(-662)
平成23年1月1日~11月30日(前年比) 死者) 21人(-12)
傷者) 7,665人(-860)



市の各種制度や施設、行事、公共交通案内などは
札幌市コールセンター

☎ **222-4894** FAX **221-4894**

Eメール info4894@city.sapporo.jp
午前8時~午後9時(土・日曜、祝・休日を含む)



市政に関するご意見、ご提案などは
市民の声を聞く課

☎ **211-2042** FAX **218-5165**



札幌市役所ホームページ

www.city.sapporo.jp

※広報さっぽろの誌面も掲載。お住まいの区以外の区民のページもご覧になれます。

携帯電話対応サイト

<http://www.city.sapporo.jp/mobile/>

こちらからもアクセスできます→



広報クイズ

問題

市も開催を支援している、道内最大のフ
ァッションイベントの名前は何でしょうか。

札幌

新春特別プレゼント

正解者の中から抽選で
共通ウィズユーカード
(1,100円分)とPMFカ
レンダーを、それぞれ30
人の方に差し上げます。



応募方法

はがき、ファクス、Eメール。クイズの答え、郵便番
号、住所、氏名、年齢、電話番号と希望賞品、広
報誌や広報番組へのご意見・ご感想を記入し、
広報課(下記)へ。1人1通。1月23日(月)消印
有効。発表は発送をもって代えさせていただきます。
なお、12月号の正解は「**③雪たい積場**」でした。

広報さっぽろは、毎月10日(1月号は年末)
までに、町内会などを通じて市内の全世帯に配
布しています。また、一部の地域では、市が委
託した民間の会社が配布しています。詳細は、
広報課かお住まいの区の区役所広聴係へお問い
合わせください。



札幌市市長政策室広報部広報課
〒060-8611 中央区北1西2
☎211-2036 FAX218-5161
Eメール kohokakari@city.sapporo.jp



札幌市長
うえだ ふみお
上田 文雄

市民の力を結集し
輝き続けるまちへ

年頭にあたり謹んでごあいさ
つを申し上げます。

昨年、東日本大震災と福島
第一原子力発電所の大事故が発
生し、今なお先が見えない状
況です。本市は、被災者に対
する支援を続けるとともに、
防災力向上と脱原発依存に向
けて取り組んでまいります。

今回の災害を受け、私たち
はあらためて、人が人を支
える力の強さを認識しまし
た。「人の力」を結集し、ま
ちづくりに生かす「市民自
治」を推進するため、区役所
やまちづくりセンターが連
携し、豊かな地域づくりに
取り組んでいく所存です。同
時に、人が持つ創造性を育
み、発揮されることで新た
なまちづくりにつなげる「
創造都市さっぽろ」の取り
組みを進めてまいります。

これからの札幌は、超高齢
社会、人口減少という未知の
時代を迎えます。こうした
変化に対応し、札幌のまち
が将来にわたって輝き続
けるよう、全力で取り組ん
でいきます。ご協力を心か
らお願い申し上げます。



札幌市議会議長
みかみ ようすけ
三上 洋右

市民福祉の
向上のために

年頭にあたり、札幌市議
会を代表して、市民の皆さ
まに謹んでごあいさつを申
し上げます。

昨年、東日本大震災と福
島第一原子力発電所の事故
により、かつてないほど「暮
らしの安全と安心」という
ことを考えさせられた年
でした。また、国政が混迷
する中で、日本社会の先
行きの不透明感、生活に
対する不安がかつてない
ほど増大しています。

このような社会経済情勢
の下、迅速、かつ、大胆な
変革が求められていると思
います。市議会議長とし
ての使命も「議会改革の
推進」と「市民福祉の向
上」にあると考えていま
す。

昨年は、海外視察の4年
間の凍結や長期欠席議員
の議員報酬の減額をはじ
めとした改革を実現しま
した。

192万人の市民の代表
である札幌市議会は、本
年、より一層議会改革を
進め、市民の皆さまの負
託に応え、地域の発展と
市民福祉の向上に向けて
全力で取り組んでまいり
ます。

本年も変わらぬご支援
とご協力をお願いしま
す。

市役所・区役所などの連絡先

●市役所

〒060-8611 中央区北1西2/地下鉄大通駅下車
☎211-2111(代表) FAX218-5161(広報課)

●区役所(電話は代表、ファクスは広聴係)

中央区	南3西11	☎231-2400	FAX231-6539
北区	北24西6	☎757-2400	FAX757-2401
東区	北11東7	☎741-2400	FAX742-4762
白石区	本郷通3北	☎861-2400	FAX860-5236
厚別区	厚別中央1の5	☎895-2400	FAX895-2403
豊平区	平岸6の10	☎822-2400	FAX813-3603
清田区	平岡1の1	☎889-2400	FAX889-2402
南区	真駒内幸町2	☎582-2400	FAX582-0144
西区	琴似2の7	☎641-2400	FAX641-2405
手稲区	前田1の11	☎681-2400	FAX681-6639

●救急医療情報案内センター(24時間)(医療機関の案内のみ)

フリーダイヤル ☎0120-20-8699 携帯電話、PHS専用 ☎221-8699

●夜間急病センター

中央区大通西19/地下鉄東西線西18丁目駅下車 ☎641-4316 FAX615-8604



私たちの アイデアが 札幌を変える

札幌に住む192万人の市民。

その一人一人に、新しいアイデアを生み出す力、
「創造性」が備わっています。

そして、生み出されたアイデアは、
私たちの心や暮らしをより豊かにする可能性を秘めています。

今回の特集は、そうした新しいアイデアを生かして
活動しているデザイナー、クリエイター、
大学生へインタビュー。

創作活動時の苦勞や喜びの声を通じて、
アイデアが札幌のまちにもたらす影響を見ていきます。





さくま ようすけ
佐久間 洋介さん

市も開催を支援している札幌コレクション2010に出品。その中で行われた、洋服のデザインの将来性を競う「ブランドオーディション」でグランプリを獲得した。現在は、企業の制服などのデザインのほか、ファッション情報誌の編集などに携わる。24歳。

ファッションは 道を切り開く力を 秘めている

「札幌コレクションへの出品が転機だった」と佐久間さんは話す。専門学校卒業後、進路が見えずフリーターに。漠然と「デザインを仕事にしたい」と考えていた。そんな中、道内最大のファッションイベント「札幌コレクション」を見て「あの場で自分のデザインを披露したい」と強く思うようになる。その後はデザインに没頭し、翌年念願の出品を果たす。「手応えはあった」。結果は会心のグランプリ受賞。努力が実った瞬間だった。

アイデアを形にする秘訣は、「型にはまらず、今、好きなものを落とし込むこと」。未来的なものが好きな時は光沢のある生地、手の込んだものが好きな時は刺しゅうを使う、という具合だ。東京を中心に動くファッション業界。佐久間さんは、道外に目を向ける若者へ「札幌でデザインし、発信することも十分にできる」とメッセージを送る。その言葉には、アイデアの力を信じて道を切り開いた、佐久間さんの思いが込められていた。



佐久間さんがデザインした洋服。7,000人を超える来場者の目をくぎ付けにした

佐久間さんが生み出したもの

札幌コレクションに出品した洋服

テーマは「気だるい女の子」。肩の周りなどに細身に女性的なラインを出しつつ、腰周りなどを緩めに仕上げることで、男性向けの服のような“やぼったさ”が出るよう工夫している。



(左)「男性向けは、つい自分が着たいものを作ってしまうため、あえて女性向けの服のみデザインしている」と佐久間さん。
(中)佐久間さんのデザイン画。1日1枚は必ず描くのだとか。
(右)佐久間さんが編集に携わる情報誌「SCRIPT(スクリプト)」。市内の百貨店などで無料配布している。



日高さんと田邊さんが作ったベビーカーの試作品

開発のきっかけは、小さな子を持つ母親が大学に送った1通のメールだった。「冬道で使えるベビーカーはないでしょうか」。さまざまな機能を備えたベビーカーが売られている中、冬道に対応したものはなかったのだ。

こうした要望を形にしよう。講義での呼び掛けから、日高さん、田邊さんから学生たちは、それぞれのアイデアを盛り込んだベビーカーを試作することになる。「自分がお母さんになった気持ちでアイデアを出しました」。日高さんは、段差を楽に越えられる足踏み装置や赤ちゃんの防寒フードを、田邊さんは、安定感を高めつつ母親の進路を踏み固める3つのローラーを発案。母親との意見交換会や実験を重ね、約2カ月かけて試作品を完成させた。

雪国ならではの発想。 冬道でも安心して使える ベビーカー

日高さん・田邊さんが生み出したもの

雪道でも安心して 走行できる ベビーカー

雪道の段差への対応や赤ちゃんの寒さ対策など、使う人のことを考えた工夫を凝らしている。実物大の試作品を製作した段階で2人の研究は終了。商品化には至っていないが、大学での研究は継続している。



札幌市立大学デザイン学部
日高 麻里さん、田邊 優さん

生活者の視点で、より使いやすく、魅力的な製品の企画などを学ぶ「製品デザインコース」に所属する大学生。講義で雪国ならではのベビーカーについて研究。平成23年6月には日本デザイン学会に出場した。



(左) 実際にベビーカーを使用しているお母さんから意見を聞き、製作に生かした。
(右) 日高さんのベビーカー。足で踏むと前輪が上がる仕組みになっている。



札幌市立大学デザイン学部ホームページ www.scu.ac.jp/design

アイデアには、まちを豊かにする力がある

今回は、アイデアが磨かれ、私たちの心や暮らしを豊かにする力になっていく事例を紹介しました。札幌に住む192万人の市民の誰もが、こうしたアイデアを生み出す可能性を秘めています。そして、札幌には芸術や音楽に触れられる施設やイベントなど、人々の感性を刺激する、さまざまな環境が整っています。市は、ここで生まれたアイデアを大切に、より魅力あふれるまちを目指す「創造都市さっぽろ」の取り組みを進め、創造的な活動を応援していきます。皆さんも人々が生み出すアイデアに積極的に触れるとともに、そこで得られた発想を普段の生活に生かしてみませんか？

1,123件のご意見をいただきました

・パブリックコメント※300件 ・キッズコメント823件

※制度などを決定する際に、皆さんから意見をいただき、それを考慮しながら最終決定を行う仕組み



分野と意見数



子ども
283件

子どもの笑顔があふれる街

子育て

- 認可保育所の定員を4,000人分拡大
- 家庭的保育の拡充や事業所内保育への支援など、さまざまな保育サービスを充実

寄せられたご意見

待機児童を1人でも減らし、母親が働きやすい環境にするため、幼稚園でも保育ができる環境を整備してはどうか。

市の考え

認可保育所を整備するほか、私立幼稚園での預かり保育に対し運営費用の支援を行うなどして、待機児童の解消を目指します。

- 小学校の余裕教室などを活用したミニ児童会館を整備
- 児童クラブの対象を6年生まで拡大し、開設時間を延長

健やかな育ち

- 学校に通うことが難しい子どものため、不安や悩みを和らげる場として教育支援センターを2カ所設置するほか、フリースクールを支援

経済・観光 177件

活力みなぎる元気な街

企業支援・産業育成

- 近隣自治体と連携し、環境エネルギーなど成長が見込まれる技術革新分野の企業を札幌圏へ誘致
- 空き店舗などを活用し、商店街の再生を図る取り組みを支援
- 医療や介護などの分野で大学と企業が連携して行う研究を支援

観光の魅力づくり

- 世界中から人が訪れる街を目指し、国際芸術展の開催や国際会議などの誘致を推進
- 2,300席規模のホールなどを備え、文化芸術などの創造活動の拠点となる市民交流複合施設を整備

都市整備

- 路面電車のループ化を実施
- 都心部や駅周辺の駐輪場を整備
- 都心や苗穂駅周辺地区のまちづくりを推進

寄せられたご意見

企業の困りごとを大学に研究してもらい、研究成果を企業に安く提供してはどうか。企業の成長につながり、税収のアップが見込めるのでは。

市の考え

医療や介護などの分野で、市内の企業と共同研究を行う大学の研究者などへ、研究費を補助します。こうした取り組みを通じて、大学などの研究成果を企業が活用する取り組みを推進していきます。

これからの札幌を創る 新たな計画が完成

第3次札幌新まちづくり計画

行財政改革推進プラン

皆さんから寄せられたご意見を踏まえ、札幌をより魅力的なまちにするための2つの計画が完成しました。今回の特集では計画内容の一部を紹介するとともに、本誌10月号で募集した、計画案へのご意見などを紹介します。

キッズ
コメント

子どもたちからも
たくさんのご意見を
いただきました

市立の全小中学校に、2つの計画の案を掲載した子ども向けの冊子を配布。両計画へ合わせて、1,151件ものご意見が寄せられました。



上記の分野のほか、57件の意見が寄せられました

第3次札幌新まちづくり計画

平成23年度～26年度に、市が優先的に取り組んでいく事業の計画です。
ここでは、その事業の一部と、計画の策定に当たって寄せられたご意見を紹介します。

詳細 政策調整課 ☎211-2206



安心・安全 217件

安心して暮らせる ぬくもりの街

防災

- 冬季の暖房対策を含め避難場所の環境を調査し、整備計画を見直すとともに、必要な備蓄物資を整備
- 地域住民の避難場所ともなる学校をはじめ、市有建築物を耐震化

寄せられたご意見

キッズ
コメント

防災の取り組みをすぐにしてほしいし、お年寄りや子どもがいる家庭に避難場所が分かるようにしてほしい。

市の考え

東日本大震災を踏まえ、防災計画の見直しや消防体制の強化など、さまざまな対策を行います。避難場所は区役所などで配布中の「地震防災マップ」などに記載していますが、今後もPRに努めます。

福祉・雇用など

- 特別養護老人ホームの定員を1,018人増加
- 医療機関案内や救急時の医療相談を行う電話窓口を設置
- 身近な区役所などに、職業紹介などを行う「あいワーク」を拡充し、市内全区で就業を支援する体制を強化



市民自治・文化 100件

市民が創る 自治と文化の街

地域のまちづくり

- まちづくりセンター・地区会館の建て替えを実施するほか、地域で市民集会施設の改築などをする際の費用を補助
- 地域の課題に取り組む町内会に対する、統計データなどを分析した資料の提供や、ワークショップ開催などの支援

寄せられたご意見

意欲のある人が地域活動に参加しやすくなるよう、コーディネーターを育成し、地域に配置すべき。

市の考え

まちづくりセンターを中心に意欲ある人と地域の活動をつなげる取り組みを一層推進するとともに、地域の状況に応じてコーディネーターによる支援を行うなどの仕組みづくりを検討していきます。

文化・スポーツ

- 次世代型博物館計画の策定や、遺跡公園の整備を実施
- 新設するカーリング場で体験会や教室を開催するなど、気軽にカーリングを楽しめる環境を整備



環境 289件

みんなで行動する 環境の街

温暖化対策・循環型社会

- 小中学校などの市有施設へ太陽光パネルを設置

寄せられたご意見

キッズ
コメント

学校への太陽光パネルの設置に賛成。ただ、お金が掛からないように、いろいろ工夫する必要があると思う。

市の考え

順次実施している学校の耐震化工事に合わせて太陽光パネルを設置していくことで、工事や設計などのお金を節約するように工夫をしています。

- 高い断熱性を持つ札幌版次世代住宅の建設費を一部補助
- 家庭から出る生ごみの分別収集・資源化の実証実験を実施

みどり・動物

- 都心部の街路樹のボリュームアップ
- 円山動物園にアジア・アフリカゾーンを建設するほか、ゾウについて市民と議論の上、導入可否を判断

行財政改革推進プラン

712件のご意見を
いただきました

これまでも行ってきた「市役所の仕事の進め方やお金の使い方・集め方の改革」を、平成23年度～26年度の4年間で一層進めていくための計画です。これまでいただいたご意見と、完成した計画の一部を紹介します。

詳細 改革推進部推進課 ☎211-2061

- ・パブリックコメント384件
- ・キッズコメント328件



財政の改革

491件

お金の使い方を見直し

- 事務費の節約や時間外勤務の縮減など市役所の内部努力によりコストを削減
- 効率的な職員配置などにより、人件費を削減
- 公共施設などの整備が進んだことから、公共事業は既存の施設の維持や管理へとシフトを図るなど、事業の選択と集中を考え、効率的に実施

収入の基盤を強化

- 税金の維持・拡大に向け、5万人規模の雇用を創出
- 市内中心部の再開発の支援などにより経済を活性化

寄せられたご意見

市民が所得を向上できるプランでなくては、希望も生まれません。行政は投資を呼び込むような施策を行うべき。

市の考え

第3次札幌新まちづくり計画の事業のほか、積極的な産業育成などで経済活性化を図ります。また、経済波及効果の高い都心部での再開発支援などで、民間投資を引き出し、魅力あふれる都心づくりを進めていきます。

- 収入の確保や負担の公平性の観点から、市税や国民健康保険料などの収納対策を強化

- 保育や児童クラブなどのサービスについて、利用する人としいない人の公平性を保ちながら持続していくため、利用者負担の見直しを実施



保育所の拡充など待機児童の解消に努めながら、サービスの持続を目指していきます

- 基金の活用や、利用が見込めない土地を売却するなど、市の財産を有効に活用



行政の改革

221件※

※プラン全体に寄せられた意見数を含む

市民力を活かす市役所へ

- 表現方法や言葉遣いなどを工夫することで、誰にでも「伝わる」広報を推進し、市民との情報共有を強化

寄せられたご意見

市のパンフレットなどは市民に理解してもらおうという意思が感じられない。「手に取ってもらいやすいもの」「分かりやすいもの」を作ってほしい。

市の考え

情報の分かりやすい発信に努めていますが、ご意見を真摯に受け止め、例えばデザインを決める際は情報を受け取る方々（育児情報なら母親層など）のご意見を取り入れるなど、さまざまな手法を検討していきたいと考えています。

- 市民と市が直接対話する出前講座などの取り組みの認知度を向上させながら、対話の機会を充実させる



市長と市民が対話する「ふらっとホーム」では活発な議論が交わされます

- 市役所やコールセンターを通じて市に寄せられたご意見の市政への反映を強化
- 大学やNPOなどと連携しながら、地域のまちづくり活動の企画提案を募るなど、若者が地域活動に参加する機会や仕組みを充実させる

組織と仕事の見直し

- 地域の身近な活動拠点であるまちづくりセンターの場を活用した相談活動を充実させる
- 全まちづくりセンターでの住民票などの即日交付
- ICカード「サピカ」をバスや市電などへ導入

市ではサービス利用料の見直しをプランに盛り込んでおり、保育料の引き上げと児童クラブの利用者負担の導入について、たくさんのご意見が寄せられました

寄せられたご意見

保育所の保育料 216件

- 札幌は政令市の中でも収入が少ない家庭が多いのだから、子育てには手厚い支援が必要。
- 保育料が上がることで、子どもを預けて仕事をするのができなくなる。これ以上の負担増はやめてほしい。
- 税金で特定の人だけを優遇するのはやめるべき。

児童クラブ利用料 57件

- 市は子育て支援の充実をうたってきたはずである。利用料はこれまで通り無料を貫いてほしい。
- 有料化してしまうと、放課後に家庭で一人で過ごす子どもが増えてしまうのではないかと。

なぜ、保育料や児童クラブの利用料を見直す必要があるの？

福祉への支出が大幅に増加

景気の低迷などにより、生活保護や児童福祉などに掛かる社会保障関係費が大幅に増加。増加分の費用を含め、大きな財源不足を、市役所の内部努力や建設事業費の削減などで解消してきました。

	平成8年	平成23年
生活保護費	561億円	⇒ 1,231億円
児童福祉関係費	152億円	⇒ 684億円
障がい福祉関係費	90億円	⇒ 379億円

社会保障関係費の主な内訳

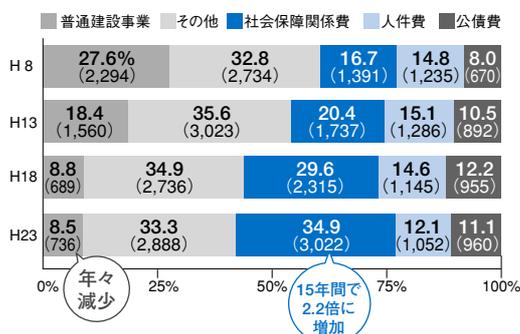
これまで

ご意見が多かった保育所の保育料について

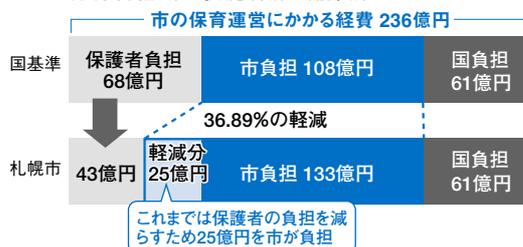
札幌市は財政基盤がぜい弱で財政力指数※は政令市で最も低い状態です。そのような中、保育料に関しては利用者負担を少なくするため、政令市で2～3番目に高い水準で軽減を行ってきました。

※ 財政力指数 福祉、教育、土木など、標準的な行政に掛かるお金を、自らまかなえる割合。札幌市は約0.7で、政令市中最も低くなっている。

15年間の予算歳出構造の推移 カッコ内は予算額(億円)



保育料軽減の状況 (平成23年度予算)



保育料軽減率※の比較 (平成23年度予算)

札幌市 (これまで)	36.89%
政令市平均	29.99%
●北広島市 28.04%	●石狩市 19.62%
●小樽市 19.27%	●江別市 18.26%

※国の基準よりも保護者の負担を減らすため、市が負担している割合。市の軽減率を政令市平均並とした場合でも、利用者の皆さんの負担は近隣市と比べ、重くなるものではありません。

利用料見直しに当たっての想定額

保育所保育料	10%程度の値上げ※1
児童クラブ利用料(1カ月)	無料→3,000円※2

想定値であり、今後変動があり得ます
 ※1 保育料軽減率を政令市平均並にした場合の改定率
 ※2 午後5時以降などの利用に対するものを想定

厳しい財政の見通し

今後、社会保障関係費や公共施設の老朽化に伴う改修費用の増加などにより、平成24～26年度で337億円の赤字が見込まれます。

サービスを持続するために

市では、保育所定員の4,000人拡大や児童クラブの時間延長などを行います。そのためには、平成27年度以降、毎年約26億円の運営費を市が新たに負担する必要があります。支出が増加する中でのサービスの持続と負担の公平性の観点から、利用料の値上げなどが必要と考え、今後議論を進めるためにも、利用者負担の見直しをプランの中に盛り込んでいます。

※ページ内の金額や数値は、各項目ごとに四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

将来にわたって魅力あふれるまちを創るために
 景気の低迷など、市を取り巻く環境はとてつもない状況です。そのような状況を乗り越えるためには、安心して暮らせる社会をつくるとともに、新たなまちの魅力も生み出す必要があります。将来にわたって魅力あふれるまちを創るために、限られた財源をどう使っていくべきか、市ではこれからも皆さんの声を聞きながら、まちづくりを進めていきます。



2つの計画の冊子を配布しています

配布場所

- 第3次札幌新まちづくり計画 区役所、市役所(1階)10階政策調整課
 - 行財政改革推進プラン 区役所、市役所(1階)10階改革推進部推進課
- 詳しい内容はホームページからもご覧いただけます

暮らしに役立つ!

毎日の生活の中ですぐ実践できる、身近で役立つ情報を物知りギョウ太が解説します。

知って

得する

しっとく さっぱり!

登場人物



ギョウ太

南区で太古の化石が発見されたジュゴンの仲間「サッポロカイギュウ」の子孫。世話好き。



ナナ

東京出身。進学で札幌した、1人暮らしの大学生。スイーツが大好き。少しそっかしい。



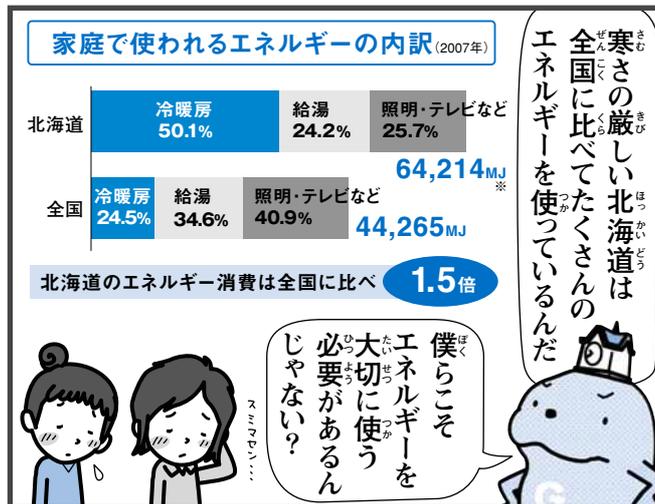
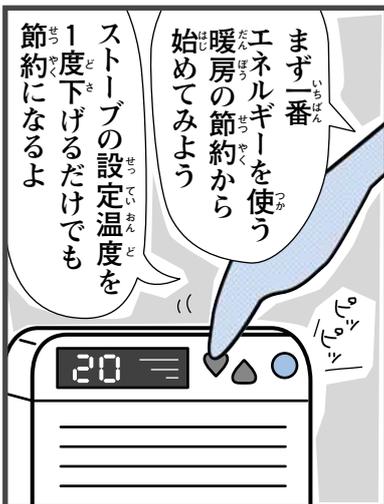
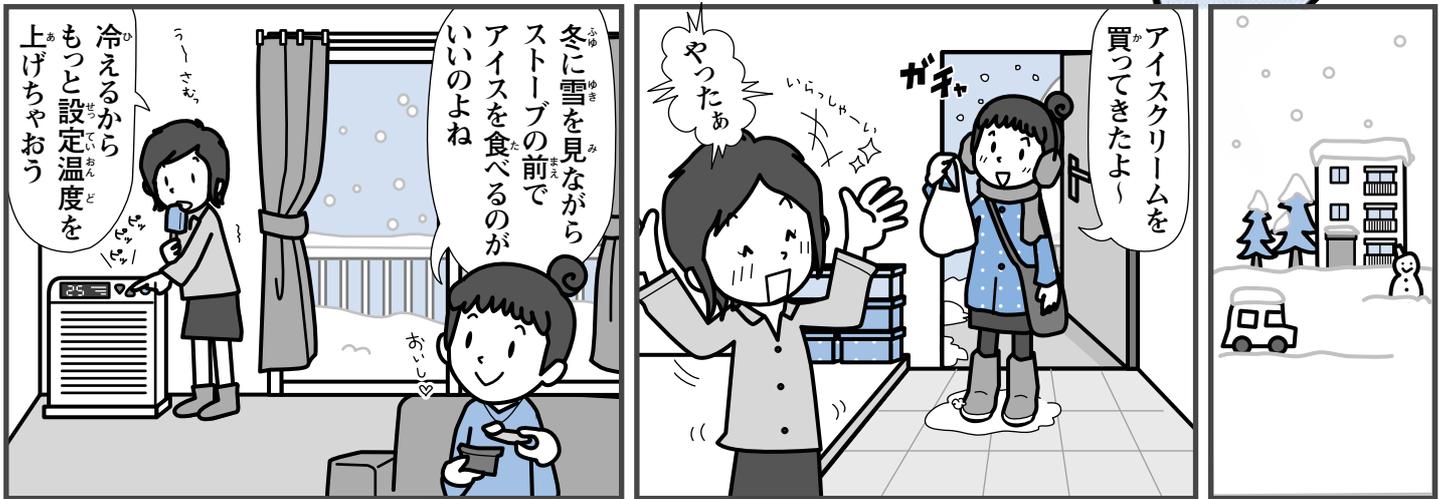
ユイ

生まれも育ちも札幌で、ナナとは大学の同級生。しっぺり者。



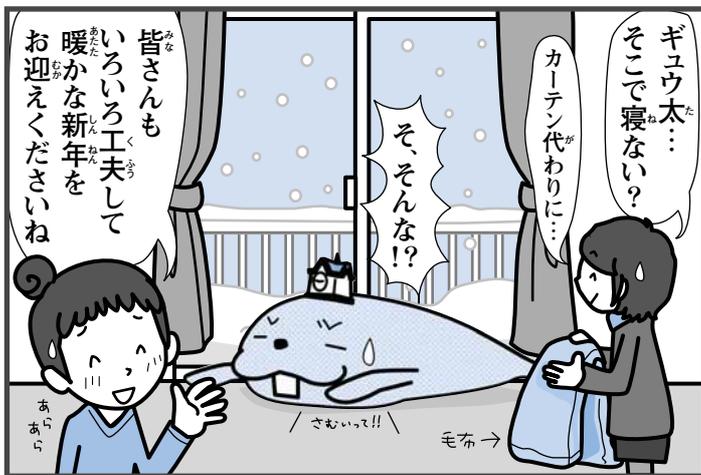
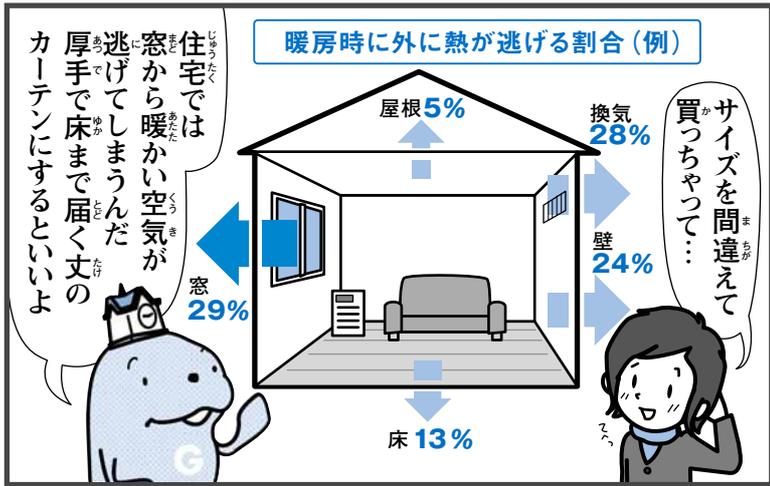
第4話
おうちで省エネを始めよう!

このページに関するお問い合わせは、環境計画課 ☎211-2877



※MJ(メガジュール):熱量の単位。

出典:「家庭用エネルギーハンドブック2009年版」(財)省エネルギーセンター



室温を下げてても 服装を工夫することで暖かく過ごせるよ。首・手首・足首の「三つの首」を覆うんだ。

太い血管のあるこの部分を 重点的に温めることで 体全体がぽかぽかするよ。

さらに カーディガンを 着ると +2.2度

靴下をはくと +0.6度 体感温度が上がります

環境に優しい冬の暮らしを

積雪寒冷地である北海道では、冬に多くのエネルギーを使います。エネルギーを大切に使う冬の暮らしを考えてみませんか。

【暖房の節約のポイント】

- 室温は20度を目安にし、必要な時だけ暖房をつける
 - ・室温を21度から20度に下げる。→灯油10.2ℓ/年(約780円)の節約※1
 - ・暖房の運転時間を1時間短縮。→灯油15.9ℓ/年(約1,210円)の節約※2
- 熱を逃がさない
 - ・厚手で天井から床まで届く丈のカーテンを使う。
 - ・窓ガラスに断熱フィルムを張る。
- 日差しを取り入れる
 - ・天気の良い日はカーテンを開け、日が陰ったら早めに閉める。



家計の節約にもなって 一石二鳥だね!

家庭でできる節電のアイデアを紹介したパンフレットを配布中!

冬は、暖房や照明などで電力の消費量も多くなる季節です。パンフレットを参考に暮らしを見直して、前年比マイナス15%の節電を目指しませんか。

配布場所 区役所、まちづくりセンター、市役所ロビー、市役所12階環境計画課



※1: 外気温度6度で1日9時間使用した場合 ※2: 1日設定温度20度で運転し1時間短縮した場合。データは、(財)省エネルギーセンターの実測値を使用しています。居住地域・住宅などにより異なります。このページの事例については「灯油節約のツボ」「おうちで省エネ!」(北海道経済産業局発行)を参考にしています。

働く千カラ ★ さっぽろ流

Vol. 4

子育ての経験を生かして、
多くの親子が喜ぶ仕事がしたい



おたか いとみ
大高 愛美さん

子育て支援サイト「ママナビ」を運営する株式会社MammyProに平成23年8月に転職。千歳市出身。27歳

「超就職氷河期」といわれる昨今。就職先を道外に求める人もいる中、札幌で働くことを選び、生き生きと仕事をしている若者がいます。このシリーズではそんな元気な若者にインタビュー。札幌で働く理由や仕事に対する思いを語ってもらいます。

現在の仕事の内容を教えてください。

子育て中のお母さんのための託児付き食事会「親子カフェ」の運営が主な仕事です。飲食店などの会場探しや告知のホームページ制作、開催準備を担当しています。

ご自身も、2児のお母さんとして聞きました。

はい。小学生と2歳の子がいます。転職前は、雑貨のネット販売会社に勤めていたのですが、上の子が生まれてからずっと、子どもに関わる仕事がしたいと思い続けていたんです。

転職に向け、どのように活動しましたか。

働きながらパソコンスキルに通い、実践的なスキルを学びました。その後、転職活動に本腰を入れるため退職。子ども服の販売など子どもに関わる会社に多数応募しましたが、小さな子どもがいることが支障となり、不採用が続きました。

そうした中、今の会社に出会ったのですか。

はい。ハローワークで求人を見つけました。会社のことを調べるにつれ、子育てに役立つ情報サイトの運営や、親子カフェのような場の提供など、子育ての大変な部分をビジネスとして支援する姿勢に共感し、ここで働きたいと強く思

ったんです。その思いを面接で社長にぶつけ、運良く採用に。必死の気迫が採用の決め手だったそうです。

仕事のやりがいを教えてください。

親子カフェに参加したお母さんから「ゆつくりおしゃべりできて楽しかった」「すごく息抜きになった」と言われたり、託児スペースで遊ぶ子どもが満面の笑顔で駆け寄ってきたり——親子の喜びがじかに伝わってくる時、心底やりがいを感じますね。

子育ての経験が役立つ機会も多そうですね。

社長をはじめ社員はみんな子育て中のお母さん。自分の経験から得た発想を持ち寄り、議論しながら形にしていけます。あつたら良いなと思うことをどんどん実現させて、もっと子育てしやすい環境をつくっていききたいですね。



社長と共に仕事に励む大高さん。考えたお弁当レシピをサイトで公開するなど、日々奮闘している。

身近な課題をビジネスにしたい方を支援

女性のためのソーシャルビジネス講座

子育てや環境などの身近な課題を仕事にする「ソーシャルビジネス」で、起業を目指す女性向けの講座です。実際に起業した方が仕事内容や起業のきっかけを講演するほか、資金や人脈づくりなども学べます。

1月30日(月)開講。応募方法などは本誌16ページをご覧ください。

問い合わせ先 男女共同参画センター ☎728-1255

ホームページ www.danjyo.sl-plaza.jp

新たなビジネスを応援します

ソーシャルビジネスの魅力を知り、起業につなげてもらうための講座を、今後も開催していきます。広報さっぽろでもお知らせしますので、ぜひご注目ください。

たなか きよりの
経済企画課 田中 清敬さん

